<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">基礎看護学実習Ⅰ</td><td>単位評価者</td><td>矢野　茜</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>1</td><td>単　位</td><td>1</td><td>時　間</td><td>45</td><td>担当教員</td><td>専任教師</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">対象者の身体的・心理的・社会的側面を知り、既習の基礎看護技術を基本に基づいて安全・安楽に適用できる能力を養う。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">≪実習目標≫
1. 看護の対象者を理解する。
2. 既習の基礎看護技術を適用できる能力を養う。
3. 看護専門職者として求められる看護実践能力を身につける。

<u>基礎看護学実習Ⅰ－１</u>
＜目標＞
1. 療養生活を送る対象者を知る。
2. 対象者への看護の実際を知る。

<u>基礎看護学実習Ⅰ－２</u>
＜目標＞
1. 対象者の身体的･心理的･社会的側面から健康障害による日常生活への影響を知る。
2. 基本に基づいて基礎看護技術を安全・安楽に実施する。
3. 看護専門職者として求められる看護実践能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習　　京都第一赤十字病院</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">1）実習状況と実習記録　95%　　2）記録物提出状況　5%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">看護師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">基礎看護学実習Ⅱ</td><td>単位評価者</td><td>矢野　茜</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>2</td><td>単　位</td><td>1</td><td>時　間</td><td>45</td><td>担当教員</td><td>専任教師</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">健康障害のある対象の三側面を知り、看護過程や看護技術を用いて看護を実践することの重要性を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">1．健康障害のある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象理解を深めることができる。
2.　対象者の健康障害による日常生活への影響を知り、基礎看護技術を安全に実施する。
3.　看護専門職者として求められる看護実践能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習：京都第一赤十字病院</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">1）　実習状況と実習記録　95%　　2）記録物提出状況　5%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">看護師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">基礎看護学実習Ⅲ</td><td>単位評価者</td><td>田村　亜夕子</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>2</td><td>単　位</td><td>1</td><td>時　間</td><td>45</td><td>担当教員</td><td>専任教師</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">基礎看護学の学習内容をもとに対象者に看護過程を展開し、看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">1.　受け持ち患者に対し看護過程を展開し、対象者に応じた看護を行うことの重要性を理解できる。
2.　基礎看護技術を用いて対象に応じた看護技術を実施する。
3.　看護専門職者として求められる看護実践能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習：京都第一赤十字病院</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">1）実習状況と実習記録　95%　　2）記録物提出状況　5%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">看護師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">問題解決思考実習</td><td>単位評価者</td><td>本城　美奈子</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>2</td><td>単位</td><td>2</td><td>時　間</td><td>90</td><td>担当教員</td><td>専任教師</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">各発達段階における対象者のライフサイクルを捉え、対象者のニーズに応じた看護を実践する能力を養う。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">1. ライフサイクルを捉え、看護過程を展開し、対象者とその家族に応じた看護を実践する。
2. 対象者に応じた方法で看護技術を安全・安楽に実施できる。
3. 看護専門職者に求められる実践能力を身につけるため、自らの課題を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習：京都第一赤十字病院
A3 階、A4 階、A5 階、B3 階、B4 階、B5 階、C3 階東、C3 階西、</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">1）実習評価表による目標達成度 95%　　2）実習記録提出状況　5%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">看護師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">クリティカルケア実習</td><td>単位評価者</td><td>森 俊文</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>3</td><td>単位</td><td>1</td><td>時間</td><td>45</td><td>担当教員</td><td>専任教師</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">急激な健康状態の変化にある対象者の看護を観察し、クリティカルケア看護の特性を理解する。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">＜手術室＞
1. 手術を受ける対象者を知る。
2. 手術を受ける対象者への援助の実際を知る。

＜救命救急センター・集中治療室＞
1. クリティカルケアを受ける対象者を知る。
2. 対象者やその家族の身体・心理・社会的危機状況についてアセスメントの重要性を知る。
3. クリティカル状況下にある対象者とその家族に応じた看護を知る。
4. 看護専門職者に求められる実践能力を身につけるため、自らの課題を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習　京都第一赤十字病院（救急外来・ER-ICU・手術室・集中治療室）　43 時間
総括　2 時間</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">1）実習評価表による目標達成度 90%　　2）実習記録提出状況 5%
3）事前課題 5%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">看護師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">母性看護学実習</td><td>単位評価者</td><td>芦田 弘子</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>3</td><td>単　位</td><td>2</td><td>時　間</td><td>90</td><td>担当教員</td><td>芦田 弘子</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">新しい家族の誕生期にある人々（妊婦・産婦・褥婦と新生児およびその家族）を理解し、対象者の健康状態に応じた看護が行える能力を養う。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">1. 妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族について理解を深めることができる。
2. 受け持ち母子への基本的な看護（含保健指導）を実践できる。
3. 継続看護の必要性と社会資源の活用について知ることができる。
4. マタニティサイクルにおける母子関係・家族関係について理解し、自らの親性・育児性を深めることができる。
5. 看護専門職者に求められる実践能力を身につけるために、自らの課題を明らかにする。

この実習は医療現場で唯一、生命の誕生に関わることができる実習です。生命の尊さを改めて実感し、新しい生命は多くの人に支えられながら誕生していることを考えて欲しいと思います。また、母子の特徴をふまえた安全・安楽な看護を実践することを期待します。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習　京都第一赤十字病院
B6 階病棟
総合周産期母子医療センター（NICU・GCU）
産科外来</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表を用いて以下の内容を評価する
1）実習目標達成度　85%　　2）実習記録提出状況　5%　　3）事前課題　10%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">助産師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="5">統合実習</td><td>単位評価者</td><td>佐藤 智子</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td>3</td><td>単　位</td><td>2</td><td>時　間</td><td>90</td><td>担当教員</td><td>専任教師</td></tr>
<tr><td>目　的</td><td colspan="7">既習の知識・技術・態度を統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるように、実務に即した看護の内容や方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目　標
および
概　要</td><td colspan="7">1. 地域包括ケアシステムにおける看護師としての役割を認識し、フォロワーシップを発揮する。
2. 夜間実習の体験を通して、夜間の対象者及び環境の変化を捉え、病棟管理と関連付けながら 24 時間継続看護の実際を学ぶ。
3. 看護師の指導助言のもと、複数の対象者を受け持ち、対象者のニーズに沿った看護を実践する。
4. 看護師の指導助言のもと、看護師教育の技術項目が卒業時のレベルに到達するために行動する。
5. 看護専門職者に求められる実践能力を身につけるため、自らの課題を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>教育方法</td><td colspan="7">臨地実習　京都第一赤十字病院
A3 階　A4 階　A5 階　B3 階　B4 階　B5 階　B6 階
C3 階西　C3 階東　C5 階</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">1）実習評価表による目標達成度 95%　2）実習記録提出状況　5%</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="7">看護師として実務経験を有する教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</td></tr>
</table>